

2022年 3月23日 (水)

みらいとびら
未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第151号

令和3年度を振り返って

気がつくとも一年が終わり、皆さんとの出会いに「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。「有り難し」自分の力ではどうにもならない大きな力に支えられ、今この瞬間があるのだという事を感じられると有り難い気持ちになれるものです。生まれてきたことも、生きることも、出会いも何もかもが全て奇跡ですね。「当たり前」ではなく、皆さんとの出会いに感謝を込めて「ありがとう」

1学年支援部 岡田 麻記子

初めての支援部の1年でしたが、とても勉強になった1年でした。新型コロナウイルスの影響で色々と制限がある中で日々一生懸命に頑張る生徒の皆さんの姿を見て、とても私は励まされました。これからも皆さんと共にたくさんのことを学んでいきたいと思えます。

1年間ありがとうございました。

2学年支援部 棚倉 康裕

支援部での2年が終わりました。そして、私自身本校で初めての卒業生を出すことができました。昨年度に引き続き、コロナウイルス感染予防対策に追われた1年でしたが、形をいろいろ考えながら行事を行うことができた事は本当に良かったです。今後もこの3年間で学んだ事を活かせるように頑張っていきます。1年間ありがとうございました。

3学年支援部 宮崎 龍矢

困っている時に”自分の力だけで何とかしなきゃ！”と考えると、とても苦しいですね。そんな時、周りに力を貸してくれる人がいることに気づき「助けてほしい」と言えたら、生きていくのはずっと楽になるかもしれません。この1年間、私も多くの人に助けてもらいました。恩返しができるよう、これからも頑張りたいと思えます。

養護教諭 小笠原 悠

コロナ禍でのマラソン大会は時間差でスタートする持久走記録会となりました。福島大池を男子3周(4.8 km)、女子2周(3.2 km)することは同じです。先にゴールした生徒が後方で走っている生徒を励ましながらかき添って走る姿がみられました。3周を走り終えて自分がしんどい中で、まだゴールしていない友達に励ましの声をかけながら4周するのはなかなかできることではありません。そんな生徒の姿に支えられた1年でした。ありがとうございました。

支援部 野田 沙苗

今年度はコロナ禍において新しい生活様式のもと、みんなで色々考え、試みて、意見を交わす中で達成できたことやチャレンジして新たな気づきがありました。これからもたくさん人とつながり、気持ちよく生活を送るための「気づき」を大切にしたいです。ありがとうございました。

支援部 西山 健一